

## どうして穴が無いのに虫が？



オトシブミ科 チョッキリ亜科  
和名：ハイロチョッキリ  
学名：Cyllorhynchites ursulus

秋も深まり、今年もクリやドングリ拾いをしたという人も多いと思います。ただ、「置いておいたらイモムシがたくさん出てきた！虫食いを確認したのに何で？」という経験が皆さんありますよね。このイモムシ、皆さんは、クリムシと呼んでいると思いますが、クリムシは、クリなどの果実を加害する昆虫の幼虫の総称で、実際にクリムシという名前の虫がいるわけではありません。

クリやドングリを加害する虫は沢山いますが、今回はドングリについて、紹介します。ドングリを加害する虫の代表として、クリシギゾウムシ、コナラシギゾウムシ(ゾウムシ科)とハイロチョッキリ(オトシブミ科)という虫がいます。

これらの虫は、ドングリが未熟な若い時期に産卵管を差し込み、卵を果実内に産み付けるので、産卵の痕はドングリが成長するとともにふさがれてしまいます。穴が無いのに虫が出てくるのはこのせいです。

只見町には、ハイロチョッキリというオトシブミ科の虫が生息していますが、この虫は、まだ果実が若いうちに卵をうみつけ枝ごと切り落とします。コナラの枝が、ドングリが付いたまま何本も落ちている現場に出くわしたら、こいつの仕業かもしれません。

一方、ゾウムシの仲間は若い果実を枝ごと切り落とすことはせず、自然に落下するのを待ちます。

ドングリを工作などに使いたいという方は、拾ってきたドングリをバケツなどに入れ熱湯にかけて一晩おいたあと、新聞紙などに広げ乾燥させた後に使いましょう！

企画展示

只見の自然に生きる！  
只見町の野生動物とその生態

期間 10月12日(土)～12月28日(土)まで

詳しくは、  
只見町プラセンター  
までお問い合わせ  
ください

只見町に生息する野生動物とツキノワグマの生態や人との関わりを解説パネルなどで紹介します。剥製や頭骨、関連書籍などの展示もありますので、お問い合わせの上ご来場ください。